

機械受注（7月）：非製造業を中心に、設備投資は底堅く推移

設備投資の先行指標である機械受注は、底堅く推移。直近7月の受注は概ね横ばいで、4~6月を上回る高水準を維持。製造業からの受注では、食品、紙パなどが低調だった半面、非製造業では卸小売や運輸などからの受注が大幅に増加。機械メーカーの受注見通しからの下振れは、徐々に解消へ。

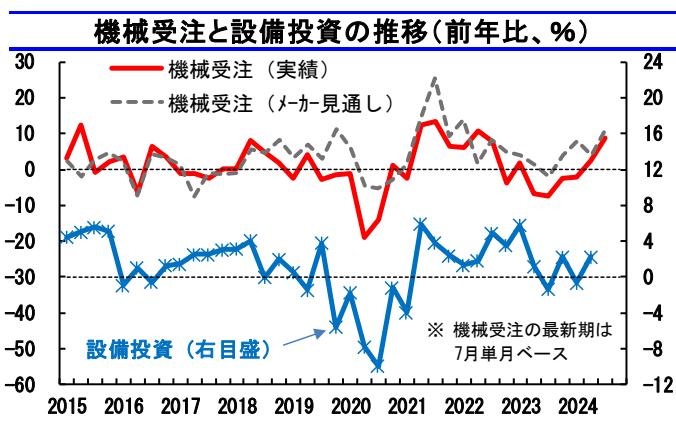
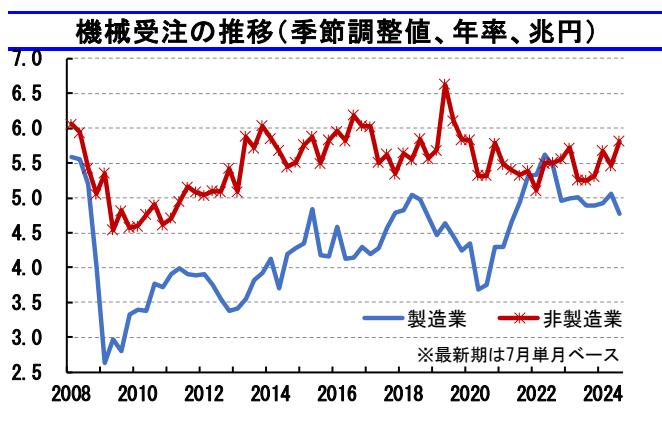
製造業が低調、非製造業は好調

機械受注（船舶・電力を除く民需）は、7月に前月比▲0.1%とほぼ横ばいだった。7月の受注額は4~6月平均を0.2%上回っており、内閣府による7~9月期の受注見通し（前期比+0.2%）に沿った動きである。四半期ベースでみると、4~6月期は前期比▲0.1%と概ね横ばいだったが、1~3月期に同+4.4%と大幅に増加したことを踏まえると、機械受注は底堅く推移していると評価できる。

7月の機械受注を業種別にみると、製造業からの受注は4~6月平均に比べ▲5.6%と低迷したのに対し、非製造業（船舶・電力を除く）は4~6月平均を6.4%上回る好調ぶりを示した（下左図）。内訳をみると、製造業では、食品製造業（4~6月期前期比+32.0%→7月の4~6月平均比▲45.4%）やパルプ・紙・紙加工品（+46.4%→▲44.9%）、金属製品（+12.7%→▲24.8%）からの受注が大きく落ち込んだほか、化学（+27.2%→▲3.9%）や自動車（+14.8%→▲1.1%）からの受注減も、製造業全体の受注を大きく下押しした。半面、非製造業からの受注は、卸小売（+1.8%→+31.8%）や運輸（+12.2%→19.5%）、情報サービス（+13.5%→+15.6%）などで大幅に増加した。

受注見通しからの下振れ解消へ

機械メーカーの比較的強めの受注見通しと異なり、機械受注は2023年4~6月期から2024年1~3月期にかけて前年比マイナス圏で推移してきたが、2024年4~6月期には前年同期比+2.7%と5四半期ぶりにプラス圏へと浮上し、7月には前年同月比+8.7%と増勢を強めている。機械メーカーによる7~9月期の受注見通し（+11.3%）には未だ及ばないものの、見通しと実績のギャップは着実に徐々に縮まっている（下右図）。先行指標である機械受注の持ち直しに追随するかたちで、設備投資は今後も底堅く推移する見通しである。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点では、株式会社伊藤忠総研が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。記載内容は、伊藤忠総研ないしはその関連会社の投資方針と整合的であるとは限りません。